

演題名：病院と老健施設の連携について
～再入所時栄養連携加算を中心に～

所属：栄養部・老健あこう

発表者：中川 友理

【目的・背景】

平成 30 年度介護報酬改定で、再入所時栄養連携加算（400 点）が新たに新設された。この加算は、当施設の利用者が入院し、栄養管理が大きく異なった状態で施設に再入所される際に適用される。

近年、病院と老健施設の連携が強く求められており、対象事例があったため報告する。

【算定方法】

算定対象となる方（今回は、入院中にムース食・水分トロミへ移行）について、病院の管理栄養士より栄養指導実施日時連絡を受け、施設管理栄養士が同席する。患者家族に、現在の食形態が大きく変更していることや、食事内容等について説明を行うとともに、患者の嗜好や嚥下状態、栄養管理をする上での注意点等の情報を提供してもらう。

【結果】

再入所前から患者の状態を把握できた事で、食形態を入所開始日から調整する事が出来た。その他多職種からの情報も得る事が出来たため、柔軟な対応ができた。

【考察・課題】

入所予定者の、入院中からの状態や、栄養指導に対する家族の理解度を知る事が出来たため、必要なケアプランを迅速に立てる事が出来た。今後の課題として、患者が算定対象であるという情報と連携を、他院とどのように図るかである。また、全体的な課題として、柔軟な嚥下調整食（ソフト食・ムース食等）に対応していない施設があるため、病院・施設ごとの嚥下調整食の内容を把握しておく必要がある。

また、食形態ごとの大きさ・固さなどの統一を図る事が課題である。